

ヲカジマカツノブ 岡島一信 通稱五兵衛。備中一元の四子で、配分知千石を受け、足輕頭・御異風裁許・御馬廻頭・御算用場奉行に歴任し、天和三年歿した。

ヲカジマカツムネ 岡島一宗 通稱兵庫。一元の次子で、配分知千石を受け、後に三百石を加増せられた。御馬廻頭・大小將頭・足輕頭・公事場奉行・御中小將頭・拜借銀奉行に歴任し、延寶五年致仕して心貞と號し、貞享元年歿。

ヲカジマカツモト 岡島一元 一吉の嫡男。通稱右近・帶刀左衛門・備中。初め前田利長に仕へ五百石を受け、漸く増して千五百石となつた。利家歿後事に依つて致仕し、越後の堀秀治に仕へて五千石を受けたが、後歸藩して大坂の役に従ひ、次いで父の後を襲ぎ、祿一萬千七百五十石を領して人持組頭となり、寛永四年利常その宅に臨み、謁を家臣に賜はつた。翌五年十月二十日歿、法號大圓宗龍居士。

ヲカジマカツヨシ 岡島一吉 通稱喜三郎。帶刀左衛門・備中。尾張の人。十七歳前田利家に越前府中に仕へて百五十石を賜はり、天正九年八百石加賜。十年命により佐々成政を援けて越中の戦に功あり、二千石加増。十一年柳瀬の役に従うて千石を加へ、十二年末森の戦により又二千石を増し、十五年豊臣秀吉の九州征伐に、利長に従うて豊前巖石城攻撃に先登した。次いで十八年關東役の後四千石を増して備中と改稱し、慶長五年大聖寺陣に千八百石を加へ、累計一萬千七百五十石を領し、後大坂冬陣に利常に従うて先鋒となり、夏陣には高岡城に留守したが、元和五年八月六十一歳を以て歿した。法名を對巖元説と稱する。

ヲカジマキヨヒロ 岡島清曠 字は土願。號は素竹。金澤に生まれ京都に住み、横山清暉に學んで四條畫を描いた。明治十年歿、享年五十歳。

ヲカジマシゲハル 岡島重治 通稱甚七郎。備中一元の五男で、配分知千石を受け、後に五百石を加へ、御馬廻頭に至つた。寛文十二年歿。

ヲカジマタツ 岡島達 一諱は通直。通稱忠四郎、號は石梁。河野四郎兵衛直次の仲子で、祖母の氏を取つて岡島に改めた。直次加賀藩の右族伊藤氏に仕へ、長子宗元は疾を以て醫を學び京都に住し、季子直之の父の祿を襲いだ。達、天資最も穎悟、強記人に超えるを以て、父之を木下順庵の門に學ばしめた。業既に成り、元祿九年七月順庵の薦によつて加賀藩に仕へ、三十人扶持を受け、寶永七年六月十日疾んで歿、享年四十四。達、書畫を能くし、又詩賦に巧みであつた。

ヲカジマモトナリ 岡島元爲 一諱吉陳。通稱備中・市郎兵衛。祿五千石。小松御城番・定火消・寺社奉行・御奏者・公事場奉行・出銀奉行に歴任し、正徳元年歿した。この系は三代の後圓次郎一清の時、祿三の一申享保十二年早世して斷絶した。

ヲカジマロクノジヨウ 岡島六之丞 岡島一元の四男五兵衛一信の三男。新知二百石を受けて内作事奉行となつたが、貞享二年江戸に於いて内作事奉行二百石齋藤左太郎と喧嘩し、亂心を以て知行を召放された。

ヲガセノミヤ 麻栲の宮 能美郡南淺井に在つた。越登賀三州志に、をがせ堂は今も南

淺井の河濱にあつて、附近の小橋ををがせ橋といふとある。神體麻栲を眞ひ給ふが故にこの名があつたが、今は八幡神社とする。

ヲカダ 岡田 珠洲郡正院郷に屬する部落。

ヲカダイセノカミ 岡田伊勢守 長門守の弟。初め加藤清正に仕へ、次いで前田利長の臣となつて三千俵を受けたが、後幕臣となり、五千石を領し、寛永八年歿。その子治太夫加賀藩にあつて一家を創立した。

ヲカダシゲモト 岡田重元 初諱政良。通稱喜六郎。幕臣岡田豊前守善政の子。延寶二年金澤に來仕し、知行八百石を受け、御馬廻組に列し、御先簡頭より漸く進んで大組頭に至り、享保九年致仕して雪翠と號し、隱居料三百石を食み、十四年六月廿九日八十歳で歿した。重元學を好み詩を作り、疎懶軒・閑明軒・洞華と號し、性質實にして武術を能くした。

ヲカダジダユウ 岡田治太夫 父伊勢守は初め加賀藩に居たが、次いで幕府に臣事し、治太夫を金澤に残した。是を以て治太夫は千五百石を受け、足輕頭に任じ、承應三年に歿した。後子孫世々相繼ぐ。

ヲカダスケエモン 岡田助右衛門 父は長門守。前田利長に仕へて祿千石を受け、足輕頭に任じ、慶長十九年十二月四日大坂城眞田丸攻撃に従うて戦死したが、子孫世々藩に仕へる。

ヲカダチヨウエモン 岡田長右衛門 天正中前田利家に越前府中に仕へ、祿七十石を賜はり、右筆及び御算用場奉行を勤め、後侯に従うて能登に居た時、同輩新川儀太夫と争うて一眼を失うた。長右衛門資性緝密、最も算

數に長じ、深く侯の信任を受けて、祿四千石に及んだが、後退老して二千石を受け、元和五年五月歿。子孫藩に世襲する。

ヲカダナガサダ 岡田長貞 通稱市十郎・掃部・伊右衛門。父五郎右衛門の遺知三百石を襲ぎ、元祿八年會所奉行より次第に昇進して定番頭に至り、寶永五年二百石を加へ、享保九年又七百石を加へ、十二年致仕して一惺と稱し、十四年正月五日七十一歳を以て歿した。

ヲカダナホオキ 岡田直起 通稱善左衛門。祿三百五十石。御馬廻に屬し、魚津町奉行に任ぜられ、享保十五年組外番頭となつた。元文元年八月廿八日六十七歳を以て歿。

ヲカダナリノリ 岡田成憲 通稱は右八郎。喜陸。初め新番歩組に擢でられ、明倫堂讀師となり、天保中訓蒙に任じ、助教加人に進み、尋いで世子侍讀となり、秩祿百石を賜ひ、組外に班し、弘化中南土藏奉行兼書物奉行となつた。成憲又楊齋と號して専ら墨梅を描くことを好んだ。元治元年四月一日八十歳を以て歿。

ヲカタニジンザエモン 岡谷甚左衛門 祖左馬助八百石を領し、その子惣助寛文五年歿し、惣助の子の甚左衛門は御馬廻組に屬し、八百石を領した。元祿十一年樋口久太夫の歿した時、内存の嗣子を池田伴右衛門の子權三郎と認めて置いたのに、甚左衛門の子十郎左衛門は謀書を作つてその弟七右衛門をそれに擬した。この事露顯し、同年十月七日甚左衛門は篠原市正、十郎左衛門は松平治部、七右衛門は伴八矢に御預となり、十二年八月六日十郎左衛門を刎首、甚左衛門と七右衛門とは切腹に處せられた。